

2022.11.06. あなたの炎のような試練とは

第一ペテロ 4 章 12 節から 19 節

JD ファラグ牧師

現在、「第一ペテロの手紙」を学んでいます。主の御心なら、今日で 4 章を終えます。聖書箇所は、12 節から章の終わりの 19 節までです。ではよろしければ早速始めます。可能な方はご起立いただいて、私が読むのについてきてください。ご無理な方は、座ったままで結構です。12 節から、使徒ペテロはこう書いています。

—I ペテロ 4:12—

愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間で燃えさかる試練を、... (翻訳によっては、炎の試練です) ...何か思いがけないことが起こったかのように、不審に思っははいけません。

—I ペテロ 4:13—

むしろ、キリストの苦難にあずかればあずかるほど、いっそう喜びなさい。キリストの栄光が現れるときにも、歓喜にあふれて喜ぶためです。

—I ペテロ 4:14—

もしキリストの名のためにののしられるなら、あなたがたは幸いです。...

それを乗り越えねばなりません。その話をしていきます。理由は、

...栄光の御霊、すなわち神の御霊が、あなたがたの上にとどまってくださるからです。

—I ペテロ 4:15—

あなたがたのうちのだれも、人殺し、盗人、危害を加える者、他人のことに干渉する者として、苦しみにあうことがないようにしなさい。

—I ペテロ 4:16—

しかし、キリスト者として苦しみを受けるのなら、恥じることはありません。かえって、このことのゆえに神をあがめなさい。

—I ペテロ 4:17—

さばきが神の家から始まる時が来ているからです。それが、まず私たちから始まるとすれば神の福音に従わない者たちの結末はどうなるのでしょうか。

—I ペテロ 4:18—

「正しい者がかろうじて救われるのなら、不敬虔な者や罪人はどうなるのか。」

—I ペテロ 4:19—

ですから、神のみこころにより苦しみにあっている人たちは、善を行いつつ、真実な創造者に自分のたましいをゆだねなさい。

祈りましょう。よろしければ、ご一緒をお願いします。天のお父さま、本当に感謝します。主よ、この時間はあなたと共に、あなたの御言葉の中で過ごす時間です。ただ共に礼拝し、交わるための時間です。

主よ、聖書を開き、心を開き、目と耳を開き、私たちはただあなたに奉げたいのです。私たちは、あなたに全集中したいのです。あなたが私たちの人生に、必要なら個人的に、特に今、本当に苦しんでいる人、傷ついている人、燃えるような試練を経験している人たちのために、はっきりと語ってくださることを大いに期待します。その試練は、何か思いがけない、理に適っていないように思えます。ですから主よ、使徒ペテロに、約 2000 年後の私たちのために、この御言葉を、書き残すよう促された事に感謝し

ます。適切な御言葉です。ですから主よ、あなただけがお出来になる通り、いつもご忠実であられるように、今、私たちの注意を引きつけてください。引き付けて下さったら、私たちの思いが彷徨わないよう、お守り下さい。ここに居る人、オンラインで視ている人、誰しものが、あなたが私たちに示そうとされているものを見逃したくありません。ですから主よ、これは私たちの時間です。あなたが語られるのを待ち望みます。主よ、お語りください。あなたのしもべたちは聞いております。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。ご着席ください。ありがとうございます。今日は、私たちの人生における炎の試練を具体的にどのようにとらえ、どのように考えるべきかについて、お話ししたいと思っております。今日の箇所では、使徒ペテロが聖霊によって、当時の信者らを励ましていたように、今の私たちを励まそうとしています。その励ましは、自分の試練についてを、どう考えるのか、何を思うのかです。一歩下がって考えてみましょう。あなたはその炎の中において、試練の真っ只中において、試練に遭遇すると、正しい視点を保つのは困難です。誰でも視野が狭くなりがちです。ペテロが書いているように、これから話しますが、私たちはある意味考え違いをします。私たちは試練を見て、おかしいと考えるようになります。私たちは、この試練を経験することで、たぶん、私が何かしたせいかもしれないとか、神が私に怒っておられるとか、自分が違う存在のように錯覚し始め、どうなってるの？ なぜ神はこんなことを許しておられるの？ つまり、疑問は尽きず、敵はすぐそばにいて、あなたに疑問の無限リストを提供します。ありがたいことに、主はペテロを通して、私たちが試練を、どのようなレンズから、どのように見るかを再見させようとしておられます。私は 7 つ見つけました。皆さんはもっとあるかもしれませんが、特に逆境が襲ってきた時、私たち全員がそれらを考慮するのがよいと思います。はい、逆境は襲ってきます。炎のような試練が襲ってきた時、はい、炎のような試練は襲ってきます。今日、聖霊の助けによって、私たちの人生の試練に関連して、全員が励まされることを願います。最初のは、12 節と 13 節です。私が、何を言いたいのかお分かりだと思いますが、どうかお付き合いください。このように表現するには理由があります。ちょっと考えてみましょう。その炎のような試練は、「それでも純粋な喜びとなりうる」キーワードは、「それでも」です。さて、これはいくつかの理由で興味深いのが、その中でも特に、ペテロはこのことをよく知っていましたよね？ 彼が聖霊に促されて書いているのが、「燃えさかる試練を、何か思いがけないことが起こったかのように、不審に思っははいけません。」「それは、私も経験したことだから、不審に思っははいけません。」「ペテロ、どういう意味ですか？」「お～、何度もありました。事実一度は、私が救い主と一緒にゲツセマネの園にいた時です。そして主は言われました。『ただ祈っていなさい。わたしは行きますから、ただ祈って目を覚ましていなさい。わたしはすぐに戻ります。』」ペテロは、このことをよく覚えています。なぜなら、彼は眠ってしまった、そのことについて話します。あまり深入りしたくありませんが、彼には、睡眠障害があったと思います。とにかく、ペテロは祈らなかったのです。眠ってしまった、そしてイエスが戻って来られ、彼らが眠っているのを見つけられました。イエスは、怒っははおられません。イエスは彼らに仰います。

「一時間でも、目を覚ましていられなかったのですか。」(マルコ 14:37)

しかし、そのことに対する試練がすぐ後に起こります。ペテロがイエスを 3 度否定するのです。そして、ペテロが、この炎のような試練の中で、それ故に大いに苦しんだとき、彼にはそれが不審に思えたのです。それは、彼にとって理に適っていませんでした。そのことはイエスが逮捕されたとき、なぜあのように振る舞ったかが説明します。その説明をペテロ自身に任せましょう。私はペテロが大好きですよ。ペテロに謝るために列に並ぶ人たちがたくさんいることでしょうね。私はその列に並びます。認めざる

を得えません。悲しいかな、彼は多くの説教の対象になっています。しかし、この人物はすごい人です。この人はすごい人です。(大祭司と民の長老から差し向けられた者たち) 彼らが、イエスを逮捕しに来ています。ペテロは、何をしたでしょう？ これは勇敢で、勇気ある行動です。彼は剣を取り、マルコスという名の男の、耳を切り落としました。そして、イエスは、これは、大変緩い言い換えですが、イエスはペテロを見て仰います。「は～？何をしているんだ？」「恐れることはありません、ペテロがここにいます～!!!」♪僕は、この日のために来たんだ♪ —(笑)—

「ペテロ、剣を納めなさい。あなたがしようとしているのは、これが理に適っていないのは分かります。これは、あなたにとって非常に不審に思えるでしょう。こんなことが起こるなんておかしいと思うでしょう。しかし、おかしくないのです。あなたはわたしを守ろうとしています、これは肉の武器による戦いではなく、霊的な戦いなのです。ペテロよ、ここで起こっている事はあなたには不審に思えるでしょうが、これは必ず起こることなのです。」

私はその場にいたかったですね。イエスは、マルコスの耳を癒されました。私の考えは、私がマルコスなら、あの場で救われますよ。「あなたは救い主、神の子です！ 私の耳を元どおりに直してください、ありがとうございます。あれはあなたの弟子ですね。わお～、どうか私に近づけないで下さい！」

天国で、マルコスに会えると思います。言ってみただけです。私のポイントは何か？

もしかして皆さん、疑っているかもしれません。「実際にポイントがあるのですか？」はい、あります。皆さん同意しますか？ ペテロが聖霊から触発されて、炎の試練の中でも喜ぶことについてを書く権利を得たことに。おお、多くの試練。その燃えるような試練の苦しみだけでなく、世の救い主の苦しみの証人となることに。ペテロはそれを直接目撃したのです！ それはペテロにとって、とても辛いことでした。彼は、それを理解することができなかったのです。彼は、実際にそれと戦っています。それは、彼がしたことと言いつけではなく、説明するものなのです。もう一度質問に戻りますが、この点に関して、ペテロが聖霊によって、私たちの人生に語りかける権利を得たと思いませんか？ はい。彼は得ました。ペテロはとても苦しみました。彼は、世の救い主の苦しみを、直接目にしました。そのような人から話を聞いてみたいです。何か学べる気がするからです。彼は、私に、燃えるような試練について語る権利を得ています。

「あなたは喜べます。あなたは、それでも喜びの機会として見ることができます。」

「この上もない喜びと思いなさい。」(ヤコブ 1:2)

皆さん、覚えていますか？ 忘れるわけがありませんよね。この箇所、2節から4節までを、1週間かけて学んだと思います。時間をくださいますか？ 読んでみたいです。私たちの理解にとって、適切で、密接に関係すると思います。

—ヤコブ 1:2—

私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。

ありがたいことに、彼はここで止まりません。もし止めたら残酷です。「元気を出せ、幸せにね。じゃあね。」ですよ。マジ？ ただ喜ぶだけでなく、なぜ、”純粋な喜び”と考えられるのか、説明してもらえますか？ そして、これをペテロが反復しています。その燃えるような試練の中でも、喜び、純粋な喜びとすることができます。その理由が3節にあります。

—ヤコブ 1:3—

あなたがたが知っているとおりに (望む、願う、考えるではなく)、信仰が試されると忍耐が生まれます。

ああ、その通りです。神に忍耐を求め祈ったことを覚えています。もし主が、その祈りにこのように答えてくださると知っていたら、忍耐を求め祈ることはなかったのに。「あなたが祈り、忍耐を求めたので、わたしは、OK。試練を与える、と言いました。」「いやそうでなく、試練なしに忍耐だけを与えていただけませんか？」「ダメです。」「忍耐力を得るには、試練を経験するしかありません。」「ちょっと待ってください。仰っているのは、、、」

—ヤコブ 1:4—

その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります。

ここに推論がありますよね？ 私たちがそれを働かせていないのです。私たちはそれと戦います。いや、完全に働かせないといけません。神がなさっていることをして頂くのです。神は何をなさっているのか？ あなたが求めた忍耐力を、試練の中で、そして試練を通して、育てておられます。OK。「第一コリント人への手紙」10章13節です。ご辛抱ください。これを引用します。ええ、ゆるい言い換えですが、皆さん、聞いたことがあるでしょう。たぶん皆さん自身も言った事があるでしょう。「神は、あなたが扱える以上のものを決して与えることはあられない。」それって、私だけ？ 自分が試練を経験しているとき、誰かにそう言われるのがつらいのは？ その人は全てが素人晴らしくいっているから。「神は、あなたが扱える以上のものを決して与えることはあられない。」—(笑)— 何でもいいけど。私がそれを知らないとも思うの？ あなたが言うのは簡単だよ。分かりました。あなたが試練を経験する時、あなたのところへ行って言うからね。「神は、あなたが扱える以上のものを決して与えることはあられないって～。」

「第一コリント人への手紙 10章13節」を緩やかに言い換えたものです。節は合ってるかな？ こんな感じです。使徒パウロです。「神はあなたがたを、耐えられる以上の試練にあわせ/試す(原語)ことはなさいませぬ。むしろ、それに耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていただきます。」

意味がわかりますか？ 神は、あなたが耐えられる以上のものは与えないとは、どういうことでしょうか。ずいぶんな略し方ですね。いくつか抜けています。例えば、神はその試練の中、試練を通して脱出の道を与えることにより、試練を通して試練に耐えうる力を与えてくださると非常に具体的に書かれています。それは試練に相対します。もし、あなたが私と同様なら、そうだと思いますが、私たちは皆、汚い腐った罪びとです。私は、試練を経験する前に、今、それが欲しいです。お尻のポケットに入れ、よし、私には忍耐力がある。さあかかってこい。やるぞ。そこで試練が襲う。神は既に私に忍耐力を与えて下さったので、今、忍耐力を引き出そうと思います。さてそれは、どう作用しますか？ まず、神は、明日のマナを、今日お与えになりませぬ。必要な時に必要なものを、正確に必要な時に与えていただきます。それで、試練が襲い、逆境が襲う。神がなさることをしていただき、神がなさると、その真っ只中にいるあなたは思うのです。「ほ～！」 「神よ、これはあなたに違いありません。なぜなら、どう考えても私には、これほどうまくいくわけありません。事実私は、この試練を喜び、あなたに感謝します。」試練を神に感謝したことがありますか？ 試練の真っ只中にいるときとは限りませんが、でも、確かに振り返ってみると、私の人生で本当に厳しい試練に、

「神様、もう二度とあんな経験はしたくありませんが、あの時、あなたがしてくださったことに感謝します。なぜなら、そのことがなければ、私に必要なものをお与えにならなかったからです。今、私に欠けているものは何もありません。私は成熟し、成長しました。私は忍耐力を身につけました。」これはテストなのです。「あなたは私を強めて下さいました。」私たちは何度祈ったことでしょうか。お～、神よ、

私に力を与えてください。」「おっお～、あなたは本当にその祈りに答えてほしいのですか？ なぜなら、今、わたしはあなたの人生で、あなたがわたしに求める強さを与える何かを許します。」では、先に進む前に、ここが教訓です。あなたが直面しているその試練を、もう一度見直し、一歩下がって、神のなさる良いこととして見てみてください。神がなさっている、というレンズを通して、その試練を見るのです。時に私たちは、皆この過ちを犯しますが、試練の真っ只中にいると、試練だけに集中してしまいます。そして、想像出来なくなります。神が呼んでおられることが「もしも～し！わたしが何をしているか、知っていますか？ わたしが、この事からもたらす良いことを知っていますか？」

では、最後にもう1つ。もう既にもう1つだけと言いましたが、これは、聖霊だと思います。自分のことを話します。自分が認める以上に何度もしてきました。試練を乗り越えた先に、神が試練を乗り越えさせて下さったと言った方がいいですね。その試練が終わりを告げようとしている時、その試練を振り返って、こう思うのです。「もし私が今のこれを知っていたなら、今知っていることをあの時に知っていたら、私は、戦ったり、蹴ったり、噛んだり、引っ掻いたり、叫んだり、不平を言ったりしなかった。」つまり、その間ずっと、実際に喜びを感じることができたと言う意味ですか？ 私は、ストレスで気が狂いそうでした。それが不必要でした。なぜなら、神がすべて解決してくださったからです。私はパニックに陥っていました。試練の中で、自分のものになるはずだった喜びを自分で奪ってしまいました。聞いてください。あなたが試練の中にいるとき、本当に役立つのは、喜びでしょうか？ しかし、恐れ、心配、悩み。私は試練を乗り越え、振り返り、実際に神に許しを請うたことがあります。主はこう言っておられるようでした。

「あなたを赦すけれども、喜びを持てばよかったと思わないかい？」

あれは、特に長い試練でした。私は本当に、、、全てを通して、喜びを感じることができました。あの辛く、苦しい試練の中で、どうやって喜びを持つことができたのでしょうか？ その痛みと苦しみは、まさに凄まじいものでした。そんな中で、どうやって喜びを持つことができたのでしょうか？ 今私は、その中で、それを通して、神が何をなさっていたかを知ってるからです。私はそれを、「前の後」あるいは、「その最中の後」と呼んでいます。つまり、試練ではなく、神のなさること「その後」に焦点をあてる。試練にはその後があるからです。「過ぎ去る」、「とどまる」ではありません。嬉しくないですか？ 過ぎ去ります。バイバ～イ。またね。本当にありがとうございました。長く居すぎましたね。まあいいや。長～い試練でした。でも、この事態を見ていると、起こってもいないことを大変心配している自分がいることに気づきます。私は、とても怯えていました。それが恐れの正体です。恐れに負けて、最も恐ろしいシナリオを想像しながら、どこまでも進んでいくのです。私たちはそれが得意です。

それは、「もしも・・・症」と呼びます。「お～もしそうなったらどうしよう。」敵はすぐそこにいて、ポップコーンを作りながら、あなたの恐れのビデオを流します。ちなみにホラー映画です。そして、「お～、もしそうなったら、こうなって、そして、そうなったら、こうなるかもしれない。」

次の瞬間、「お～～～、神様～～！」となります。神は仰います。「何をしているのですか？ あなたが怯えている間ずっと、わたしはそれに対処してきました。あなたが求めればすぐ与える喜びを用意していましたが、あなたは使いませんでした。」

不必要に眠れない夜が何日続いたか？ 寝返りを打つ代わりに、実際に眠ることができたのに。神はご用意なさっていたのに。神がなさるのを知っています。神は私にそう仰ったのだから。神は、前もって私に言っておられます。これが「前・その最中の後」です。試練の後です。あとになっての判断と言わ

れる通りはつきり見えるようになる時です。そして今、このことをあとになっての判断で見えています。今となってはすべてが明らかです。あの試練の時、神とあんなに戦わなければよかった。実際に、喜びを持つことができたかもしれない。私の人生に、もっと喜びが必要です。「ネヘミヤ記 8 章 10 節」の「主を喜ぶことはあなたがたの力」ではないですか？「主の喜びは私たちの力」当たり前ですね。さて、先走りしましたが、2 丁目、14 節です。あなたの試練について考えてみてください。「名誉のしるし」だとわかりますか？ そうなのです。ここで再度、ペテロは身をもって知っていました。ペテロは、イエスのすべての説教の場にいたことを理解しなければなりません。彼は、どんな説教も聞き漏らしてません。私たちのようではありません。「一回飛ばしてしまった。間に合わなかったんです。」いいえ、ペテロ違います。彼は、毎回必ずいました。彼は、すべての説教を聞いていました。彼はイエスのすぐ近くにいて、イエスの言葉をすべて聞いていました。では、イエスが説いた説教はどうだったのでしょうか？ 最もよく知られているものは？ 私たちが、山上の垂訓と呼ぶものです。皆さん、神から与えられた想像力を使って、イエスがこの説教をされたとき、自分がそこにいと想像してみてください。イエスは説教の中である箇所にとどり着きます。これは最高の箇所ではありません。私の説教の最高の箇所は、終わった時と言われています。最高なのは…終わるとき。教えについて、祝福されたのは？ それが終わったとき。—(笑)— とにかく、これは説教の、最高の箇所ではありません。実際、説教の中で最も難しい箇所でしょう。イエスがこんなことを仰ったからです。

「人々があなたがたをのしるとき、あなたがたは幸いです。」(マタイ 5:11)

何て？ 人々が私をのしったのに？ いいえ、それは名誉のしるしです。気にせず、名誉のしるしと思いなさい。実際、相手がそうでない時こそ、心配すべき時です。はい、聞いてください。すべての人が、あなたのことを良く言うとき、十分に心配し、気をつけるべきです。それについては、後でもう少し説明します。聞いてください。ののしられたいわけではありません。牧師になるなら、子ども、学者の考え、サイの皮膚を持つのがいいと言われています。皮膚がぶ厚くないと、長くはもたないですよ。しかし、ののしられたいわけではありません。ののしられ迫害されることは、敵の怒りを買ったのだと物語るの、私にとってはリトマス試験紙です。ですから、それは良いことなのです。私が本当に心配しなければならないのは、敵が私を放っておいて、誰かにメールを送るように促さない場合です。皆さん、何の話か分かるでしょう？ 心配すべきは、そういうメールを受け取ったり、こういう罵りの受ける側になったりせず、敵があなたに、感謝状を送ってきた時です。それなら、大いに心配する必要がありませんね。

「JD、これからも闇の権力者のために頑張ってくださいよ～私の王国にとって、あなたは全く脅威ではありません。実はこれ、ギフトカードで、お花は、奥様にお届けする予定です。本当にありがとうございました。」

そんな時こそ、本当に心配すべきです。繰り返しになりますが、これについては後でもう少し説明します。

3 丁目。少し時間をかけます。15 節で、ペテロは、義のための苦しみと、不義のための苦しみを区別しています。言い換えれば、あなたの不義の結果が苦しみの源です。つまり、苦しみには 2 種類あります。不義によってもたらされる試練があり、それらは（罪の）結果です。しかし、別に、義のための苦しみもあります。その違いを区別しています。思うに、神が聖霊によってペテロにこの 2 つを区別するように促されたのは、私たちが立ち止まり、ただ考えるだけでなく、「私に考え直すきっかけにする」「伝道

者の書7章14節」で、ソロモンはこう書いています。

「順境の日には幸いを味わい、しかし、こういう単語を目にすると、問題があると分かります。「逆境の日（時）には」"時"と書かないでほしかったです。「偶然、たまたま逆境に見舞われたなら、」と書いてあればよかったのに。いいえ。"when（日/時）"、原文で調べてみてください。もしかしたら、それほど過酷で確定的ではないのかもしれませんが。いえ、もっと酷いです。"when（日/時）"＝保証付・または返金「逆境の日には」つまり、こういう区別です。順境：味わう 逆境：考える なぜなら、事実じゃないですか？ 時が良く、物事がうまくいっているとき、私たちは、あまり内観しません。それは、私たちの祈りの生活にも現れますよね。つまり、私たちの祈りは非常に無害で、漠然として、取るに足らないものになります。「主よ、私を祝福し、彼らを祝福し、これを祝福してください。イエスの御名において、アーメン。」そして、行ってらっしゃ～い。しかし、逆境に見舞われた時、「お～～、神よ～～！ 神よ～～！ 天と地と海と、その中にあるすべてのものの創造者よ～～。」「お！今、わたしはあなたの注意を引きましたね。」それが逆境に襲われた時です。だからこそ、聖書にあるように、順境（繁栄）は逆境よりも危険なのです。順境は、霊的な眠りへの子守歌です。いつも良いことがあるだろうと、間違っただけで考え始めるからです。だからこそ、神は逆境を許されます。ソロモンを導かれ伝道者の書7章14節で続けている理由です。

「順境の日には幸いを味わい、逆境の日には”よく考えよ。”これもあれも神のなさること。」神は一方を他方とともにもたられます。神は、以下の目的のために両方を許されます。「のちのことを人に分かせないため。」どんな人も、自分の未来について何も分かることができないように。言い換えれば、神は順境と共に、逆境を許されます。それがなければ、立ち止まって考えないようなことを、立ち止まって考えるようにするための唯一の方法なのです。ですから今、私はこの事柄を見ていて、必要な質問をし始めます。

「なぜ、こんなことを許されるのですか？ あなたはこの中から何を私に見せられたいのですか？ あなたが私の人生に襲うことを許された逆境、その試練がなければ、見れなかったもの、あなたが私に見せられたいものは何ですか？」

「ああ、よくぞ聞いてくれました。いくつか考えてほしいことがあります。物事がうまくいっているとき、立ち止まって考え、熟考し、問う時間は取らないでしょう。逆境に立たされたとき、あなたは立ち止まって考えるでしょう。」

まず最初に考えるべきこと、また考え直すべきことは、「私が苦しんでいるのは、私自身の罪のせいなのか？ 私は、その結果に苦しんでいるのか？ この炎のような試練は、私が自分で生み出したのか？ 私が何かしたり、言ったりしたからなのか？ そのせいで、こういう結果になっているのか？」

そしてペテロは、聖霊によって彼自身の確信から、いくつかの例を挙げます。

一人殺し

「私は大丈夫です。誰も殺したことはありません。」あ～そう慌てずに。イエスは、もしあなたが兄弟を憎むなら、あなたは心の中で殺人を犯している、と言われました。だから、あなたは外れていません。盗み、悪事、性的不道徳、その他あらゆる犯罪行為、そして大胆にも、このリストに入るはずがないと思うもの、「陰口」を持ち出します。さて、この件について話しましょう。話したくありませんが、話す必要があります。なぜ？ 問いかけてみましょう。考えてみましょう。なぜペテロは聖霊に導かれ、陰口のようなものを、殺人と同じリストに入れたのでしょうか？ 陰口は、殺人のレベルに達しているの

でしょうか？ そうです。それ以上です。説明します。陰口は、致命的に危険です。舌で人を殺します。事実、最悪です。なぜなら、陰口をして不和を広げたり批判し、不平不満を言い、疑問を投げ、非難、陰で噂を立てる。それらのたった 1 つの小さな火花が、森全体を燃え上がらせます。ヤコブもまた、ごく小さな舵で巨大な外洋船を制御できると言っています。訓練で大きな獣を飼い慣らせますが、この舌を飼い慣らすことはできません。(以上 ヤコブ 3 章参照) その毒はどれほど致命的でしょうか。こんな風に作用します。誰かにこう言うんです。「誰それの事、聞いた?」「いいえ。どうしたの?」

「箴言 18:8」よると、それは美味しいそうです。私たちの肉、人間の本性が、これを切望します。「何か面白いことでもあるの?」そして、その人の悪口を言いふらす。ところで、補足で言わせて頂きますと、誰かがあなたに陰で人の悪口を言うなら、間違いなく、その人は陰で、他の誰かにあなたの悪口も言うと言断します。そうでしょうか？ 誰かが悪口を言い始めたら、まず第一に、私は自分がしていることを喜んで皆さんに分かち合います。誰もそんなことはしませんけど。なぜなら、牧師の周りではみんな最高の振る舞いをするからです。

「お~牧師さん、私はね、朝食と昼食の間に、断食して祈ったんで~す。」

「今私は、民数記を読んでいるところなんですよ~。」(お~相応しい相応しい) —(笑)—
マジですか？ 勘弁してくださいよ。でも、もし誰かが私のところに来て、これは仮の話だと思いますが、彼らがこんなことを言うなら、お~彼らは常に何というか、クリスチャン的言い方でそれを表現しますよ。「ねえ、誰それのために祈る必要がある。」「何を?」ほらね。

それで、誰かが私のところに来てこう言う。「誰それのあの話、聞いた?」そこで止めてください。「彼らに話したのですか?」ところで、彼らの噂話をする代わりに、いい考えがあります。なぜ彼らのために祈らないの? そんなに彼らを批判するよりも、良い考えがあります。なぜ彼らのために祈らないの? 恥を知りなさい! 不平不満、嘆き。そのことをイスラエルの民に聞いてみればどうですか? 神がそれを深刻に受け止められたのを知りませんか? 彼らはモーセとアロンに対して、モーセの従兄弟のコラが文句を言います。「民数記 16 章」、私の好きな記述の 1 つです。酷いもんですよ。コラは、人を集め、常に仲間を集めます。彼はモーセに立ち向かい、今 250 人ほど味方につけています。そして彼らはこのクーデターを起こし、コラはモーセの地位を奪おうと、モーセに挑戦します。もう何ヶ月、彼の悪口を言っているのでしょうか? ついに彼らは、モーセのところに来てきて、言います。

「モーセ、あなたは分を超えている。神は、私たちをお呼びにならないのか? 私たちをも用いられないのか自分を何様だと思ってるんだ?」

そして、モーセは、地球上で最もおとなしい男です。私の記憶違いでなければ、神が燃える柴から彼を呼ばれたとき、ちなみにどれほど奇妙だったでしょう?

「履物を脱ぎなさい。そこは聖なる地です。わたしはあなたをわが民の救い主として用います。」(出エジプト 3 章 参照)

これは荒野どころか、荒野の裏側で 40 年過ごした後の話です。モーセは 80 歳ですよ! 神は燃える柴の中から彼の前に現れ、「よっ! モーちゃん! (ごめんなさい) わたしはあなたを用います。モーセもこんな感じです。「あなたは人違いをされていますよ。(出エジプト 3:11 参照)

私は長い間ここにいるので、こんな、げ、げ、言語障害になりました。(羊の鳴き声の真似) 羊ばかりと話しているから、もうしゃべれないです。」神は仰います。

「いいえ。あなたは逃げられません。大丈夫。兄のアロンに話してもらえば良いのです。」

ですから旧約聖書の至る所にある通り、神は、アロンに民に語らせるようモーセに命じられました。ここが教訓です。あなたは言い訳しても、逃げられません。神があなたを召されるとき、神はあなたを召されます。ですから、モーちゃん。彼は全く望んでなかった。実際、彼はそれから逃げようと徹底的に戦いました。そしてついに、しぶしぶするのです。そして、彼は決してそれを望んでいませんでした。彼は、神がしなさいと仰るなら、喜んでこう言ったと思います。「ほら、どうぞ〜。」これ、私のオフィスの鍵です。もうあなたのものです。わお〜！ またね、あなたみたいになりたくないね。」

あなたは、すべての不平と嘆き、すべての侮辱、すべての陰口に対処せねばなりません。ここでコラはこんな感じです。「モーセよ、神は私たちが召されている。あなたは私たちよりも劣っている。私が言ったのではない。」それで、モーセはどうするのか？ 彼は言います。「よし、神に決めてもらおう。私は大変オープンだ。神が私よりあなたを選ばれるのなら、アロハ！ すべてあなたがすればいい。問題ありません。実際、私にとって大きな安心だ。」そこでモーセは、朝一番に、会見の天幕の幕屋に集合しようと言いました。「ここに来なさい。私も行きます。あとは神に決めていただきます。」それで、私はこれが大好きですよ。「民数記 16 章」、民数記は、数の書です。民数記といえば、退屈だと思われがちです。それどころか、なんという書でしょうか。私たちが、あの書を学んだのを覚えていますか？ 今から 15 年ほど前かな？ なんという書でしょうか。とにかく、次の朝、モーセとアロンが、会見の天幕に来ました。そこへコラが、集めた長老たち 250 人を引き連れてやってきました。「よし、モー、今ここで決着をつけよう。」モーセは言いました。「主よ、あなたはここで何をなさいますか？」長く待つ必要はありませんでした。神は地を開かれ、彼らを生きたまま飲み込み、殺してしまわれました。

「おお、まだ私を用いられるのですね。」とモーセは言うでしょう。もし私がモーセなら、ちなみに、さらに酷いことになります。もし私がモーセなら、その機会を捉えて、こんなことを言ったと思います。

「私の任務を欲しい人います？ 何か言うには良い機会です。今、言うか、それとも永遠に平安を保つか。」「いいえ、私たちは大丈夫！ 愛してるぜ、兄弟、モー！ ヨー！」そう...でも、モーセは感謝なことにそうはしません。で、その後どうなるでしょう？ 地に飲み込まれなかった民は、モーセに対して文句を言い始めます。「なぜこんなことになったんですか？ なぜ神はこんなことをされるのでしょうか？ これはあなたのせいだ。」(民数記 16 : 41 参照)

モーセはこんな風です。私がモーセなら、「は〜？ あなたがたはどうなっているのか？」父と息子とロバの話ですね。ではさっとお話しします。ご辛抱ください。父と息子がロバを連れ、物資調達のために町へ行きます。父は言いました。「息子よ、ロバに乗りなさい。私が歩くから。」彼らが町に入ると、町の人々は文句を言い、批判し、非難し、陰口を言い始めます。「見ろよ。あの奴隷扱いする息子を見ろよ。怠け者でダメで偉そうな息子、自分がロバに乗って、可哀そうな病気の父親が歩くだなんて。恥を知れ！」彼らはその噂を聞きました。それで父は言います。「では息子よ、今度町に行くときは、私がロバに乗る。お前は歩きなさい。」そうして、彼らは町に行きました。案の定、陰口を叩かれました。ひそひそひそひそ、「見ろよ。あの奴隷扱いする父親！ 自分はロバに乗り、息子を歩かせるだなんて。恥を知れ！」

そこで、彼らはその噂を聞きつけ、父は言います。「よし、わかった。二人ともロバに乗ればいい。」彼らは町に入ります。何が起こったか？ 陰口です。「かわいそうなロバ。二人であのロバに乗れば背中が折れるじゃないの。恥を知れ！」父親は、「もうわかった！ なんでもいい！ 二人ともロバには乗らなきゃいい。」で、二人は町へ向かいます。二人はロバを連れて歩いて町に入ります。そうすれば、陰口もなくなり、不平不満もなくなると思うでしょう？ いいえ。どうなるのか？ 町に入ると、陰口の登場です。

「あのバカな親子を見てみろよ。ロバを連れてるのに乗らないなんて。」それがイスラエルの民です。それが教会です。本当だから言いました。私たちはそれをします。つまり、悪魔的なんです。ごめんなさい。飽くなき悪魔的告発と噂話（陰口）、混乱と不和です。神はこれを憎まれますよ。それはとても破壊的です。教会を破壊することも、牧師を破壊することもできます。家庭を崩壊させることができ、結婚を破壊することができます。それが起こった事です。コラについてのイスラエルの民のように、神は彼らを焼き殺されました。私はこういう章が好きなんです。それが抑止力というものです。そして、モーセとアロンはどうしたのか？ 私なら絶対無理です。彼らは、神がコラと 250 人になさったことに不満を持つ他のイスラエル人に代わって、執り成し始めました。モーセとアロンは、彼らのために執り成します。「どうか神よ、憐れんでください。」私だったら、いやいやいいです。ー(笑)ー

皆さんもそうでしょう？ 全て霊的に見ないでください。なんとというか、ええ、カッコいいんですけど、「燃やして～、もっと燃やして～」とにかく、2人は違いました。そして、神は止められました。なぜか？ 広がるからです。不平不満は伝染します。破壊するだけでなく、伝染します。なぜなら、あなたが誰かの悪口を言い始めれば、次の瞬間、他の誰かがその人の悪口を言います。しかも、彼らを知りもしないのに！ 彼らは彼らのことを知りもしない。「兄弟、誰そのことを聞いた？」「お～、あなたは彼を知ってるの？ いえ、兄弟誰々が兄弟誰そのことを何か言っていたと聞いたので、兄弟誰そのことを話したただだよ。」止めなさい！ 止めなさい。もう何も言わないで！ 直接彼らのところへ行ってください。彼らのために祈ってください。悪口は言わないで。あなたが自滅しますよ。あなたにとって、良い結果にはなりません。「ヘブル人への手紙」の節だったと思います。ヘブル書の学びをしましたね。「あなたがたの指導を任された者については、その指導者に指導を喜びとし、あなたの益にならないので、指導者の負担にならないようにしなさい。」（ヘブル 13：17 参照）つまり、自分がすることをまさに自分が受ける側になるわけです。自分に招くことになります。自分自身を引き裂くことになります。教会を兄弟を壊したいのですか？ 彼らは、キリストにあるあなたの兄弟です。体の一部なんです。霊的な意味で自分の体を共食いするようなものです。自分自身を引き裂いてしまい、霊的にもどうなるか言うまでもありません。あなたの思いが、そういうことを考え、そういうことを言っている時。OK。さっと言います。あ、あと 4 つありますね？ どうなるかな？ 時計を見ないでください。夕食の時間までには終わります。ー(笑)ー

本当にさっと言います。誰かがあなたのところに来て、誰その悪口を言わせたとします。そして、次の週に教会に来たら、偶然にもその誰それが入ってきます。そして、あなたの隣に座る。「図々しい！」何が起きたか分かりますね？ 無実が証明されるまで有罪なので、二度と同じように見ることはありません。もし無実が証明されても、あなたの心の中では有罪です。それくらい陰湿で危険です。時に神は、私たちの注意を引かれ、仰らねばならないこともあります。

「あなたはそれが故に苦しんでいます。それは、あなたの舌による毒、悪口、中傷、噂話の結果です。」自分が種を蒔けば、刈り取りもすることになります。**(ガラテア 6：7)**

なぜ誰もあなたのそばにいたがらないのか、不思議に思いませんか？ それが理由です。孤独に悩む理由を知っていますか？ 誰があなたのそばにいたいと思いますか？ あなたは誹謗中傷する。噂話が好き。誰がその周りにいたいと思うでしょう？ 私は、励ましや啓発を与えてくれる人、こう言ってくれる人のそばにいたいです。「あなたが大変なのは知っているよ。私があるあなたを愛してるのを分かって欲しい。信じようが信じまいが、私もあなたのことが大好きです。」「本当に？」「うん、そうだよ。」

「でも私は、誰からも好かれてはいないと思いますけど。」「いいえ、私はあなたが好きです。ただ可哀そうに思った。私はあなたを励ましたいんだ。あなたのために祈ってもいい？」

ああ！（涙・涙・涙）そういう人に、私は近づきたい。彼らが来るのが見えたら、向かっていくんです。

噂好きな人が来るのが見えたら避ける。顔を合わせないようにする。「やばい、彼らに見られた！」

では 4 つ目、16 節です。これは良いですよ。あなたの苦しみは、「イエスが故に」ペテロはここで角を曲がり、クリスチャンとして苦しみを受けるのは、義の故に、イエス・キリストが故に、イエス・キリストと私たちの関係が故に、という話に戻ります。「励みにし、恥じることはない」と言っています。頭を抱え込まず、イエス・キリストの福音を恥じてはいけません。主を否定したり、ペテロのように、「主を知らない」と言ったりしないでください。繰り返しますが、ペテロはこのことを経験しましたね？

あなたは、その御名によって召されています。あなたは主の御名を恥じるのですか？

「イエスの御名、この御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」

（使徒 4：12）

あなたは、イエスと関わることを恥ずかしく思っているために、ある特定の人々の前では別のことをし、神の人々の前では違うことをするのですか？「ヨハネの福音書の 15 章」18 節から、イエスが話しておられます。

—ヨハネ 15：18—

世があなたがたを憎むなら、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを知っておきなさい。

—ヨハネ 15：19—

もしあなたがたがこの世のものであったら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではありません。わたしが世からあなたがたを選び出したのです。

「そのため、世はあなたがたを憎みます。」あ～分かりました。私は個人的にそれを受け止めていました。

「いいえ、あなたではありません。それはわたしです。あなたはわたしの名を背負っているので、わたしとの関係、聖なる意味で人々が言うところの有罪になるでしょう。先に進みましょう。今、かなりいい感じです。失われた時間を取り戻します。17 節、これはデカイです。全部デカイですね。

でも、「試練が私たちを清める」さて、これはちょっと難しいです。よく引用される言葉ですが、ペテロが「さばきが神の家から始まる」と語るのは、よく誤解されているように思います。「う～、裁かれる～」という風にお～伝道師はこの節が大好きです。こんな声を上げますから。「さばきは神の家から始まる！」するとあなたは「いやだ～！」となります。ここでペテロが言っているのは、そういうことではありません。彼が言っているのは、神のさばきの火のような試練は神の民から始まるけれど、そこで終わらないということです。つまり、これは浄化するための火です。そして、神の民の浄化のプロセスが、神の家族であるイエス・キリストの教会から始まります。神はそこから始められますが、そこで終わりません。ではどこで終わるのでしょうか？ 聞いてください。神のさばきが下り、終わる時、世の近くにいたくはないでしょう。私たちにとって、それは清めの火ですが、世にとって、それは焼き滅ぼす火です。木、草、藁と、金、銀、宝石があって、同じ火が（こちら木、草、藁を）燃やし尽くし、（こちら金、銀、宝石を）浄化し、より価値を高めます。ペテロも、他の人もそうですが、私たちの信仰は、あの金細工師のようだと言います。金をこの激しい火にかけることで、すべての不純物を炙りだし、金細工師は金かすを削り取ります。そして、その金塊に自分の姿が映ったとき、金細工師は純金だと分かるのです。しかし、その炎の試練の中で浄化のプロセスを経なければなりません。私と一緒に、この方法で試練を

再見しませんか？ 悪い事とは見ずに、良い事と見る。神が私を浄化して下さっています。神は私をよりイエスに似た者になさるんですよ。私が間違っていなければ、私も知らずにそう祈ったと思います。「イエスのようになりたい」と祈ると、順応させ、清め、砕き、削り、作り、成形されます。それは「ローマ人への手紙 8 章 29 節」、私たちが聖書の中で一番好きな節、「ローマ人への手紙 8 章 28 節」の後に記されています。

「神はすべてのことがともに働いて益としてくださることを、私たちは知っています。」(28 節)

それをみんな、好きなアクセントや方言で引用でき、翻訳も、私たちはよく知っています。しかし、その目的は何でしょうか？ 神の目的に従って召され、神を愛するとはどういうことでしょうか。その目的は、あなたをよりイエスに近づけ、キリストのように、純粹で、聖なる、柔和な…に、に、忍耐強い。それは難しいです。優しさ。痛み、苦しみを経験すると、辛い思いをしている人への思いやりが生まれるのではないですか？ 誰が言ったか忘れましたが、とても良い言葉です。こんな感じです。「もし人々が他人が経験していることを知りさえすれば、もっと優しくなれる。」わお～！これは響きました。それだけで全様相が変わります。もう二度とそのような見方はしません。今、私は分かります。「わお～、主よ、その通りに。主よ、その通りになりますように。」6 丁目、18 節、「それが救いをもたらす」ここでペテロは、イエスの別の説教を思い出しています。

「金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうが易しいのです。」(マタイ 19:24)

ですから、彼は、これはまさに聖霊と聖霊の促しですが、彼は人がそれ自体で救われるというこの概念を引用し、引き合いに出したからです。不可能です。でも、神がおられれば、難しいことも不可能なこともあります。言い換えれば、その試練は、あなたの救いをもたらすためにやってくるかもしれません。あなたは言うでしょう。「私はもう救われています。」お～、じゃあ当時の彼らは？ 誰？ 誰のことを言ってるんですか？ ああ、あなたが試練を経験するのを見てる人たちです。そして彼らは、あなたが試練でどうなるかを固唾を飲んで待っています。彼らはあなたを応援していますよ。彼らは信者ではないけれど、信者としてのあなたを見ていて、彼らは、あなたがその試練を乗り越えるのを見たいのです。もしあなたが乗り越えるなら、神があなたを試練から乗り越えさせるからです。神があなたを試練から乗り越えさせられるのを見たいだけでなく、どんな方法で乗り越えるのかを見たいのです。私はいつも失敗ばかりしているので、誰か他の人を見つけてください。彼らは私の様子を見ています。凄い。神がどのように試練を乗り越えさせられるのか、また私がどのように振る舞うかの実例です。その私がその床で胎児の体勢で歯ぎしりして叫んでいます。「神よ～～～～！」見てください。彼らの方がいいかも知れません。しかし、彼らは神がそれをどのようになさるかを見たく、神がそれをなさる時、あなたがどのように振る舞うのかを見たいのです。なぜなら、神が、神はなさいますよ。「なさる時」というのが向こう側で作用します。神がそれを乗り越えさせてくださった時、あなたの人生を見ている人たちは、「わあ、私もそれが欲しい！」と言うでしょう。皆さん、知っていますか？ クリスチャンが人生の炎の試練を乗り越え、その向こう側に来た時、より強く、より純粹に、より良くなっていく姿を見て、どれだけの人がキリストのもとに辿り着いたかを。それは、神だけが御出来になられます。「私はそれが欲しい。」彼らはクリスチャンが本物であることを期待しています。なぜなら、自分にとって神が本物であってほしいからです。それが彼らの唯一の希望です。彼らの救いのためかもしれません。あなたは、試練に直面したとき、自分自身で考え、主に問うたとき、これは自分のことでも、自分のためでもないと感じたことがありますか？ これは誰かのためだ。そして、この試練に遭遇したのは誰のせい、周

りを見回すようになります。このショーを早く終わらせて、ここから出たいんだけど？ なぜなら、これは私のためじゃない。あなたのためだよ～！ さっさと早く救われてよ。もちろんイエスの御名によって。ー(笑)ー 「創世記 50 章 20 節」、さっと言います。ヨセフが兄弟たちへ。

ー創世記 50：20ー

あなたがたは私に悪を謀りましたが、(しかし) 神は それを、良いことのための計らいとしてくださいました。それは今日のように、多くの人が生かされる (救われる) ためだったのです。

あなたは、この酷い、恐ろしい試練を経験しています。とても辛いです。「しかし、神は」が来ます。神はそこから救いをもたらされるからです。では最後に、ほら、悪くないでしょう？ まだ時計を見てはいけません。それは、「あなたを再認識させる」この説教の終わりは、ペテロが 19 節で語る、再起につながる苦しみ、特に私たちが神の御心に従っての苦しみについてが、これ以上ないほど良い方法だと思えます。この苦しみは、私自身の罪や私自身の行いの結果でないことは、すでに決まっています。むしろ私は、義のため、イエスのため、キリストのために苦しんでいます。そのために苦しんでいます。そして、私が苦しむ時、確実に名誉のしるしとなります。しかし、それは私が新たに自分自身を再確信し、主にあって邁進し続けるため必要な効果です。はい、ペテロが最初に言ったように、「不審」という単語を使いたいと思います。不審な感じがしますよね。自分が主から遠ざけると思える試練が、大変不審な逆効果をもたらし、私を主から遠ざけるのではなく、私を主に近づけるのです。こういう仕組みです。そして、私は主に再び依り頼む。私は新たに満たされ、聖霊の御力で新たな洗礼を受けます。そして、この新たな強さこそ、忍耐に相對してもたらされ、そもそも、あの燃えるような試練に相對し、生じた我慢、忍耐、強さです。新たな決意です。それが試練のなすことです。そんな風に見えていますか？ 一緒に試練を再見し、この新しい方法でとらえませんか？ 神が働いて下さるのですよ。この試練は、おかしい、不審、理に合わない。いえ、完全に理に適っています。神は、ご自分のなさることをよくご存知です。あなたには主が何をなさっているか分からない。ちなみにそれが問題です。私たちは知りたいから。物事をコントロールしたいから。さあ、正直になってください。あなたは教会にいます。私たちは、コントロールしたいのです。試練の前に忍耐力を求めるようなものです。そうすれば、コントロールできますから。ほら、私は先に銀行にお金を預けたいのです。そうすれば私は大丈夫。想像してみてください、なんと恐ろしいことでしょうか。神が与えて下さる事を信じない。私は寝る前にマナが欲しいのです。そうすれば、マナが既にそこにあるのを知りながら眠れます。朝起きたら、主が仰られた通りにマナを用意してくださっていることを信じなくなる。それが、自分がマナをコントロールする事。大丈夫。眠れます。すると神はこういう感じです、

「お～、本当に？ あなたが欲しいのは.....お～残念。今わかりました。あなたは、信仰によってではなく、見る事で歩みたいのですね。あなたがコントロールしたいのですね。あなたはわたしを信じる必要がないように、あなたが自分が必要なものをすべて手にしたい。あなたは信じる必要はありません。わたしがあなたのあらゆる必要を、必要な時に提供することを信仰によって知っているのに。」

朝起きると、神がなさると仰られたとおり、またマナがある。私には信じられない。本当ですか？ おや、神は用意すると仰いましたよ。あなたはこの試練を経験し、その試練を通して、その試練の中で、神はあなたに必要なものをすべて与えてくださいます。そして、私が言いたいのは、それがあなたを変えるのです。もっと良い言い方をすれば、あなたを主に首ったけにします。あなたを主に首ったけにします。なぜなら、その杯を味わうと、主が良いお方である事が分かるからです。

「ほ～！主は良いお方だ。神よ、本当に感謝します。素晴らしいです！」「分かっています。わたしは神です。」「素晴らしいです。」「分かっています。私は素晴らしい神です。」「畏敬の念を抱きます！」「分かっています。私は凄い神ですよ。」「わお～神よ、どうやってなさったのですか？」「わたしは神です。何でもできます。」「いや本当に、ちょっと危なかったです。」

しかし、効果があるのでは？ あなたを首ったけにします。「ほ～あれを乗り越えたのだから、乗り越えられる！」私は自分のことを話しています。神は今、私を砕こうとしておられます。あなたがどうしようもないと思っていたことを神が乗り越えさせて下さると、

「神様、あなたがどうなさったのか分かりませんが、あなたがなさったことは分かります。感謝します。」という所へあなたを連れて行かれます。この意味、わかりますよね？これがゲームチェンジャーです。なぜなら、何が起こったとしても、あなたがそれをされたのなら、あなたにお出来にならないことが何かありますか？あなたはこれを乗り越えさせてくださいました。神がそれを乗り越えさせてくださいました。神が乗り越えてさせてくださらないことが何かありますか？あなたが経験し、神はあなたを歩兵から守られました。さあ、騎兵の登場です。かかってこいです。神は騎兵からも守られませんか？神は私を歩兵から守られました。ダビデ。もう締めくくりますから。まだ時計は見ないでください。

本当にもう終わりますから、イエスの御名によって、信仰によって。見えないけど、信仰によって信じます。ダビデ。無割札のペリシテ人に立ち向かいました。ちなみに、自分を話のヒーローにするのはやめましょう。ダビデはイエスです。神の御名を冒瀆する無割札なペリシテ人を斬ります。ダビデがやってきて、サウル王は彼を説得します。ダビデは何をしているのか？彼はこう言います。

「サウル王、失礼ながら聞いてください。...人がそう言い出すのが嫌なんです。何が起こるか分かっているので。...失礼ながら、神は私の手に熊と獅子を渡されました。あの男に勝ち目はありません。」

そもそもダビデはあの男の名が "王者 "という意味なのでそう呼ぶことさえしませんが、ダビデは、彼をゴリアテと呼んだことは一度もありません。ダビデは必ず彼を冒瀆する無割札のペリシテ人だと呼びます。そして、最初ダビデが登場したとき、「ああ、ダビデはもうダメだ。」と思うでしょう。サウル王も含め全員そう思っています。そしてダビデが、「主にあって」主が熊と獅子を自分の手に渡されたと言った時、主にとって何か難しいことがありますか？主はこの無割札なペリシテ人を私の手に渡されないとでも？僕にやらせてください。今度は無割札なペリシテ人が気の毒に思えてきます。彼はもうダメです。やられます。そして、彼はそうになりました。そうになりました。(以上 I サムエル 17 章)

これで説教は終わります。ご起立ください。カポノ、上がってきてください。—(笑)—

時計は、見ないでくださいよ。いいえ、見てもいいです。私は知りません。皆さんは私に大変優しいです。皆さんの優しさに感謝します。皆さん本当にそうです。

天の御父よ。まずはユーモアを感謝します。そう仰った通り薬効があり、癒し効果がある事を感謝します。主よ、笑いは良いものです。特に試練の中にいるときは、喜び、笑い、希望が良いです。主よ、激しい試練の中にいる人のために祈ります。今日、私たちが学んだものを、聖霊によってそのプロセスを始めてください。あなたはいつも優しくしてくださいます。荒っぽくなく、強いられません。あなたはただお優しく、忍耐強くあられます。このことを私たちに導かれるプロセスを始めてください。私たちが試練を再考し、違ったレンズを通して見れますように。主よ、あなたと戦わないように。主よ、私たちをよりイエスに似せ、周りの人をイエスに近づけられたいのに、あなたと戦ってしまうことをお許しください。主よ、感謝します。試練にではなく、試練を感謝します。試練の中いるのを喜ぶのではなく、

試練に対して喜ぶのです。私たちは、試練の中で、試練が故にあなたが何をしてくださるかを知っているので喜びます。ですから主よ、感謝します。私たちを十分に愛して下さって感謝します。あなたが私たちを愛しておられなければ、気かけられないでしょう。しかし、あなたは私たちをとて愛して下さっています。主よ、感謝します。私たちもあなたをとて愛しています。イエスの御名において、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7